

## 第71回日本医学検査学会に参加して思うこと

太田安彦\*

### はじめに

第71回日本医学検査学会が令和4年5月21日(土)、22日(日)の2日間、ATCホール・ハイアットリージェンシー大阪で開催された<sup>1)</sup>。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、現地開催および事後オンデマンド配信のハイブリッド配信で実施された。オンデマンド配信は5月21日(土)から7月10日(日)までの期間で開催された。大会長は関西医科大学くずは病院の高田厚照先生で、「躍動!次代へ繋ぐ臨床検査」というテーマで開催された(図1)。講演や演題も多岐にわたっており、大会長や日臨技の講演では臨床検査技師の未来について、また文化講演では世界遺産、漫才、人工クラゲ、串カツ、万博、海遊館等あらゆる分野の専門家による講演が行われた。日臨技企画では災害対策や国際交流、教育講演等では今の時代を反映する内容や、昨年に導入されたタスクシフト/シェアに関する事等、興味の尽きない内容であった。

### I. 新型コロナウイルス感染症禍での開催

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、我々の生活が一気に変わってしまった。それまでは何も考えなくても普通にできていたことができなくなってしまった。その影響は各種学会においても同様であった。



図1 第71回日本医学検査学会 in 大阪  
「躍動!次代へ繋ぐ臨床検査」というテーマで  
5/21 ~ 5/22 に開催された。

特にパンデミック初期は開催を中止する学会も数多く見られたことは皆さんも記憶に新しいことと思う。しかし、「with コロナ」の状況が続く近年

\* 香川県立保健医療大学 保健医療学部 臨床検査学科 oota@chs.pref.kagawa.jp

において状況が変わりつつある。各種学会は新型コロナウイルス感染症禍における新しい学会運営の方法を見出した。1つはハイブリッド形式による開催、もう1つはオンデマンド配信を利用した開催である。本大会においても現地開催とオンデマンド配信を併用している。これまでの現地開催のみの学会に比べて、学会参加へのハードルがかなり下がったのではないかと感じた。これは私自身がそうであったからである。しかし、そうは言ってもコロナ前の学会参加者数と比べれば、やはり現地参加者の数が少ないようには感じる。現地開催に関してこれまでは、プログラムを確認し興味のある内容の演題等に会場内を歩き来することを考えて参加してきた。これは現地開催ならではの行為であるが、興味のある演題等がバッティングした場合どちらかをあきらめなければならないということであった。もちろん現地開催に参加した場合は今でも同じであるが、ここにオンデマンド配信が加わることで、バッティングしていた演題の両方を見ることができるようになる。これは、画期的な運用の仕方であると私は考える。ただ、画期的だと考えるのは私の立場が現場の技師ではなく教育現場の人間だからかもしれない。病院等によっては専門の部門一筋で仕事をされている方もいるので少し考え方の異なる方もいると思う。今回はあくまでも私の視点で学会参加の報告をさせていただく。

## II. オンデマンド配信を利用して (参加者の立場から)

今回の学会ではオンデマンド配信を利用してみた(図2)。オンデマンド配信を利用した学会参加はこれまでもいくつか経験はしたが、毎回思うことは聞き逃しが無いということ、好きな時間



図2 第71回日本医学検査学会 in 大阪の事後  
オンデマンド配信

5/21~7/10 までの期間オンデマンド配信が行われた。

に利用することができること、また、現地開催では時間の関係もあり質問も多くはできないが、時間の制限なく質問を演者に行えるところがオンデマンド配信の利点であると考えられる。逆にオンデマンド配信の欠点というべきかどうかはわからないが、ネット環境がないと利用できない、また運営側がサイトの立ち上げ等従来なら必要なことを行う必要があるとういうこと、現地参加の人数が減少する可能性がある等が挙げられる。しかしながら、「with コロナ」の状況で行える学会では必要不可欠ではないだろうか。今後新型コロナウイルス感染症が終息したとしても、ハイブリッド形式、オンデマンド配信はぜひ残してほしいと思う。

## III. オンデマンド配信を利用して (座長の立場から)

今回の学会は一般演題の座長としての参加でもあった。事前にオンデマンドで行うとの通知があったが、これまで、現地での座長というのは経験があるが、オンデマンドでの座長というのは初の経験であった。座長の立場からオンデマンド配信について考えると、非常に助かった部分があった。演題に対する下調べにかかる時間にかなり余裕が持てたこと、演題を聞いた後にも時間的に余裕があること、演者との質疑応答も納得のいくまで繰り返し行うことができる等が挙げられる。今回のオンデマンド配信での座長の経験は、とても有意義なものとなった。今後もこのような機会に巡り合った時はぜひ協力していきたいと感じた。また、今後自身が運営側になった時には参考にしたい。

## おわりに

今回の第71回日本医学検査学会開催に当たり、学会運営の先生方においては、新型コロナウイルス感染症禍の中、大変ご苦労されたと推察される。私自身もオンデマンド配信での参加であったが、いつもであれば自身の専門領域についてのみの参加が殆どであり、専門領域外の部門の演題発表にはあまり参加してこなかった。しかしながら

ら、オンデマンド配信を利用することで、より幅広い知識を得る機会を得た。「with コロナ」の状況から生まれたハイブリッド形式やオンデマンド配信を利用した学会運営のノウハウは今後の学会の新しいスタイルになっていくのではないかとと思われる。対面形式の学会に戻ったとしても、ぜひこれらは何らかの形で残していってもらいたいと願っている。また、今回の貴重な経験を今後の学生教育に活かしていきたいと考える。現在少し

ずつではあるが全国的に新規感染者数が減少してきており、このまま終息に向かってくれることを願いつつ私の学会報告とさせていただく。

#### 文 献

- 1) 第71回日本医学検査学会 in 大阪ウェブサイト, 2022.  
<https://web.apollon.nta.co.jp/jamt2022/index.html>